

人体を基にした指事字

大 **大** **大**は、手足を“おおきく”広げた形で、“おおきい”という意味を表わしています。

夫 **夫** **夫**は、人の頭に冠を加えて、“成人”の意味を表わした字です。昔は、成人式に初めて冠をかぶったからです。丈夫、夫婦。

立 **立** **立**は、**大**の下に大地を加えて、“たつ”ことを表わした字です。

並は、**立**の略字で、人が二人“ならんで”立っていることを表わした会意字です。

天 **天** **天**は、**大**の頭のとっぺんに一を加えて、“頭の顛いただき”を表わした指事字です。顛と天とは同音同義の字ですが、天は、転じて、頭の上に広がる空の意味に用いられるようになり、天の本義は顛が表わすようになりました。

士 **士** **士**は、端然と坐っている人の形で、“成人”または“役人”であることを表わしています。紳士、武士。

仕は、**入**が**役入**として“つかえる”ことを表わした会意形声字です。仕官。

要 **要** **要**は、手(⇒)を腰にあてている形で、“こし”という意味を表わした指事字です。腰は、人体の要点なので、今の「重要」という用法が生まれました。

腰は、**要**が「重要」の意味に用いられるようになったため**肉**を加えて“こし”の意味を表わしたものです。

女 **女** **女**は、**女**に乳房を表わすしるしを加えて作られた指事字です。

身 **身** **身**は、妊婦を横から見た形で、「娠」の本字です。今は「体」(身体)の意味に使われるようになったために、**娠**が作られました。娠は**媪**の意味です。